

閑人を読んで

中西 卓

先日の二八会で、50余年ぶりに 斧と会うことができた。当日は限られた時間に互いの近況を話すことができなかつたが、彼のエッセイ「閑人」を読んで、空白の年月が埋まったように思う。やっぱり彼は大人だ、でんと構えて田舎暮らしを堪能している。事象を科学の目で見ると、一方 猫との接し方に寺田寅彦と漱石をあわせたような感性と表現力、実にいい歳を重ねているんだ。他方、自分は全くの小人である。様々な活動と地元行政への関わりを絶ちきれず、身の整理もままならず、プアな脳が雑念で埋まっている。

斧とは 1E と 3B で同級だった。成績上々の彼と下の俺がなぜ親しかったのかわからない。若江岩田の家を訪ねると部屋に岩波文庫が並んでいた。彼は読書家のみならずエッセイで「改造」や「世界」が出てくることから高津新聞部員に劣らず社会派だったに違いない。

20代に駐留軍将校宿舎だった白壁に緑の屋根の家に泊めてもらい 赤城山へのドライブ、妙義連山へのハイキングに連れてもらったことを思い出す。年を経て近辺に出張時に電話したことがあっても、会うことができなかった。もう会えないだろうと思い込んでいたが、今回幹事役の石原とやり取りするうちに 斧に呼びかけようということになった。3人は紀伊田辺のアメリカ村や志摩半島御座で19、20に夏の海を楽しんだ仲間である。

斧の年賀状を本人の了解を得ずに披露させてもらう。毎年のようにヨーロッパアルプスを訪ねているようで、今年はモンブランだった。道理で背筋がしゃんとして健康そうだった。難聴はお互いとしても、背が曲がり脳力の衰えを一段と自覚する己がなさけない。念のため言うとな、彼の名の 巳は始めと終わりの画が接している。高校のとき 確かめたことがあった。

60年前に呼び捨てだった学校友達に久しぶりに会うと 君やさん、文字では兄と呼ぶのが普通だが、高津の仲間になんな呼び方では親しみが戻らない。

ただし、5期生 ML でお世話になっている野口兄には敬称をつけさせてもらいたい。1E でさほど親しくなかつたのに今は親切に相談にのってくれるのが有難くてうれしい。去年夏、エアカナダからのメールに釣られて Air CANADA Rouge なる Lcc 利用でバンクーバー往復の旅をした。往きは関空から直航だったが、復路は成田-羽田を乗り継ぐ定期便なので、首都圏の夕刻をリムジンで3時間足らずが旅慣れない者には不安だったので、野口兄に電話したら「大丈夫だよ」と。結果は成田まで30分余り遅れたが、余裕をもって羽田に着くことができた。

ML が最近生き返ったと諸兄姉が感じられていると思う。トップページの校舎が純白に復元されたこと、索引・目録が改善されて機能的になったのでアクセスの楽しみができた。80をこえてこんな素晴らしい ML をもっているグループは全国でも珍しいのではないかな。野口兄に感謝するばかりである。

名エッセイに応えられない迷文で ML を汚すご無礼にお許しを乞う。

2017. 6.29

